



森づくりサポートニュース

平成28年(2016年) 12月20日号

びわこ地球市民の森(森づくりセンター)

〒524-0102 守山市水保町2727 TEL 077-585-6333 FAX 077-585-6312
メールアドレス biwako@morigukuri.info URL http://www.morigukuri.info

生きものとの共存を目指した森づくり

前号に引き続いて生きものとの共存をテーマとしました。前号で哺乳類の調査結果を報告しましたが、今号では鳥類について報告させていただきます。この報告は調査専門の業者に委託したまとめを、紙面の都合もあり、わかりやすく要約しています。実際のまとめは、拡大コピーの上、森づくりセンター内の展示コーナーに展示していますので、来館の折に是非ご覧ください。

ところで、11月からふるさとゾーン下流の新設トイレの傍で、四阿と周辺の修景工事が始まりました。上流(竹林)でも、旧センター近くに橋を2基架け、水路を挟んで人間も動物も往来がし易くなります。それぞれ年度末には完成の予定です。

完成後の竹林周辺の状況が変わってきますが、先の哺乳類の調査では、そのふるさとゾーンで、アナグマとタヌキが多く確認されていて驚きました。鳥類調査では、スズメ目、カモ目、タカ目など「14目76種」という個体数の多さだけでなく、国や県のレッドリストに載っている猛禽類のチュウヒなど貴重種の多いことにも驚かされました。

調査の考察では2つとも、「ふるさとゾーン」以外の森はまだ若く、下草も少ないために林内の見通しが良いことから、餌場・隠れ場としての利用度が低い、また「ふるさとゾーン」の竹林についても、今後の維持管理次第では同様の危惧があるので、少しでも動物にとって棲みよい環境を残すことを望む、と書かれていました。

都市公園である「びわこ地球市民の森」では、森とはいっても、まず安全安心が第一義であり、そのため見通しを良くすることが求められています。共存とは名ばかりで、人間以外の野生の生きものには誠に棲みづらい環境になります。野生生物に対して、それでもよろしければどうぞ棲んで下さいという訳です。今後、森のゾーン別、区画別利用計画・管理計画を考えいくに当たり、「生きものとの共存を目指す」と森づくりのコンセプトに謳っている以上、一番人家から離れたあたりに、一部保全エリアを確保することも必要ではないかと思っています。



チュウヒ(左)が探餌している水路



整備された樹林地



水辺と樹林のエコトーン(水域と陸域の移行帯)

「びわこ地球市民の森」に生息する鳥類 ～生きもの調査～結果報告～

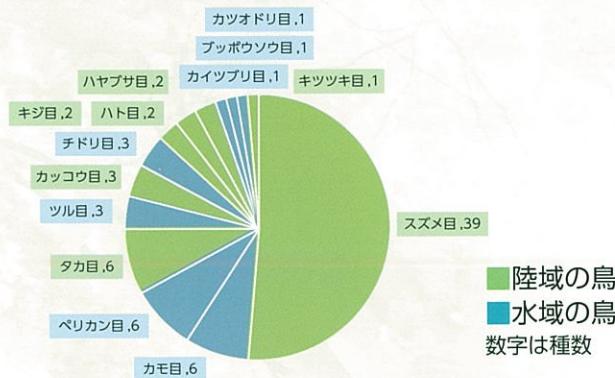
森づくり活動や利活用の適切な方法を考え、生きものとの共存による生物多様性に富んだ森を目指すため、平成27年夏から28年春にかけて鳥類の生息調査を実施しました。

調査は森全域を対象に、ラインセンサス（予め設定したライン上を調査）、任意踏査、定点調査により行いましたので、前号（Vol.58号）の哺乳類調査に引き続き、その結果を報告します。

確認された鳥類

スズメ目、カモ目、タカ目など「14目76種」の鳥類を確認

○確認された目別種数



県の鳥
カツオヅブリ

○目別の主な個体種名

目	主な個体種
スズメ目	ムクドリ、ヒヨドリ、ツバメ、スズメ他35種
カモ目	コガモ、カルガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ他2種
ペリカン目	アオサギ、ゴイサギ、ダイサギ、コサギ他2種
タカ目	トビ、チュウヒ、ハイタカ、ミサゴ他2種
ツル目	バン、ヒクイナ、オオバン
カッコウ目	ホトトギス、カッコウ、ツツドリ
チドリ目	タシギ、コチドリ、ケリ
キジ目	キジ、コジュケイ
ハト目	キジバト、カワラバト
ハヤブサ目	チョウゲンボウ、ハヤブサ
カツオヅブリ目	カツオヅブリ
キツツキ目	コガラ
ブッポウソウ目	カワセミ
カツオドリ目	カワウ

○確認された個体数ベスト10

（ラインセンサスによる確認数）

優位	種名	確認数
①	ムクドリ	567
②	ヒヨドリ	299
③	ツバメ	208
④	スズメ	188
⑤	キジバト	166
⑥	コガモ	131
⑦	カワラヒワ	112
⑧	オオヨシキリ	90
⑨	ハシボソガラス	89
⑩	ホオジロ	88



調査結果を踏まえて

●水域と陸域が通路や移行帯の役割

- ・バン、ヒクイナといった地上を歩く水鳥と、ホオジロなど水辺の草地から樹林を広く利用する鳥類にとって良好な生息環境の役割を果している。



ヒクイナ
ミサゴ

●猛禽類の餌場として周辺農地と一体的に多様な環境を形成

- ・樹林や林縁（オオタカ、ハイタカ）、水辺（ミサゴ、チュウヒ）、草地や農地（ノスリ、チョウゲンボウ）が猛禽類の餌場となっている。



猛禽類の
チョウゲンボウ
陸域の鳥 ホオジロ

●林内の伐採木・枝等が餌場、隠れ場として機能

- ・植林地の林床に積まれている伐採木や枝等（エコスタッフ）に探餌の様子が確認され、鳥類の餌場、とまり場、隠れ場として機能している。ただ、ハチの巣づくりには十分注意する必要がある。



植林地内のエコスタッフ(左)と探餌するヤマガラ

●生息環境の維持に保全エリアの確保が必要

- ・同一の大きさの樹林地や公園機能確保のための下草刈り、竹林の一斉伐採等により多様な生息環境の維持に支障をきたす恐れがあるため、今後は在来種の実生の保護や計画的な竹林伐採等により下層植生を残すなど部分的に保全エリアを確保する必要があると考えられる。

第3回

「秋の森づくりセンター活動」

10月9日(日) 心配された雨も明け方には止み、無事に第3回森づくりセンター活動が開催されました。

参加者51名が、森づくりセンターからふれあいゾーンの2003~05年に植樹された森を通って、つどいのゾーンへ向かいました。活動は、県道沿いの2006年植樹地で下枝切りや間伐を行い、見通し・風通しを良くしていただきました。

ガールスカウト15名の皆さんには、自然教室「森は秋がいっぱい」をテーマに森を歩きながら秋を探しました。

その後、お隣の今浜自治会主催の「コスモス観賞会」に参加させていただき、おいしい豚汁をごちそうになりました。子どもたちも、火おこし体験などで楽しく過ごしていました。



〈開会式〉



〈間伐・枝切り作業〉



〈ガールスカウトの自然教室〉



〈コスモス観賞会（火おこし体験）〉



上空から見た森の姿

2016年5月12日(木)に、森づくりサポーター団体「ふくの会」メンバーの和田皓さんに森の航空写真を撮影していただきました。趣味のラジコンヘリコプター操縦の腕を生かし、地上に人影がないことを確かめながら、100枚ほどを撮影しました。森の木々の生長が良くわかる貴重な写真の一部をご覧ください。



森づくりセンター（里の森ゾーン）



旧森づくりセンター周辺（つどいのゾーン）



ふれあい池横あずまや周辺（ふれあいゾーン）



モリモリ山山頂周辺（出会いのゾーン）

お知らせ



～第4回森づくりサポーター活動のご案内～

早春の森が、みなさんのお越しをお待ちしています。



開催期日

2017年3月11日(土)

開催場所

びわこ地球市民の森(ふれあいゾーン)

活動内容

植栽地の育樹活動と巣箱づくりなど

編集後記

年の瀬を迎え、落葉の木々は葉っぱを落とし森は冬眠の時期に入りました。

森づくりサポーターの皆様には、今年1年森づくり活動に熱心に取り組んでいただきありがとうございました。

来春3月には、今年度最後の「森づくりサポーター活動」を開催します。

皆様のご参加をお待ちしています。

森のデータ

植樹面積	80,808 m ²
植樹活動参加者数	45,994 人
植樹本数	160,967 本
森づくり活動参加者数 (平成27年度)	11,460 人
内、サポーター活動 参加者数(平成27年度)	2,991 人